佐藤まさたか
市政レポート
第115号
2026年10月19日発行
【発行】ちゃんと変えよう！東村山

スマートシュリンク

「賢く縮む」時代へ

萩山小学校の建替え・複合化から考える
「公共施設は何のため？ だれのため？」



新しい萩山小学校の完成予想図（市議会提出資料を一部加工／実際の設計で変更される場合があります）

萩山小学校の複合化にゴーサイン

▶9月定例議会の最終日（10月6日）午後10時過ぎ、萩山小学校の建替えと周辺公共施設の複合化を進めるための約80億円の設計・施工・維持管理の一括契約が賛成14、反対9で可決されました。3月議会では1票差で否決された議案です。私は3月には反対しましたが、今回は賛成しました。

▶今回の事業は、単に築60年を迎える萩山小学校を建て替えるだけではなく、公民館や図書館、児童クラブ、憩の家などを一体的に整備する、公共施設再生の最初の大きな取り組みです。そして今後、多くの公共施設が老朽化による限界を順次迎える中で、将来のまちの姿を考える重要な第一歩でもあります。

なぜ、公共施設の整理・再編が必要なのか

▶東村山市では、小中学校をはじめ、多くの公共施設が建築から50年以上を経過しています。これらを一斉に建て替えることはできず、大規模な改修にも莫大な費用がかかります。今後、人口減少が進み、財政や職員体制にも制約が強まると考えられますので、すべての施設を今と同じ規模や数で維持し続けることは現実的ではありません。

▶だからこそ、必要な公共サービスを守り、将来世代に過大な負担を残さないために、施設の総量や配置、機能の見直しが求められている、とする市の考え方を私は基本的に是としてきました。

ただし、建物の数や面積を減らすことだけが目的になってはならず、何を残し、何を変え、どのような機能を充実させるのか。市民の暮らしと地域の将来を中心に据えた十分な議論が必要です。

学校を核とした複合化が生み出す可能性

▶学校は、子どもたちが学ぶ場であると同時に、地域にとってとても大切な公共施設です。そこに公民館や図書館などが一緒になることで、子どもから高齢の方たちまで、多様な人々が日常的に集い、出会い、学び合う可能性が広がります。

▶例えば、地域の大人が子どもの学びを支え、子どもたちの活動が地域に新しい活力を生む。図書館での学びが公民館での活動につながり、世代を超えた交流が生まれる。そんな施設を目指すべきだと思っています。大切なのは、単に建物を一緒にすることではなく、そこから新しい関係性と価値を生み出すことです。

萩山小の事業で見えてきた課題

▶今回の契約に至るまでには、事業者選定の公正性や透明性、約80億円という事業費の妥当性、複合化後の運営のあり方など、多くの問題が議論されました。私が3月に反対した大きな理由も、特に学校教育と社会教育を担う教育委員会による運営面の検討が不十分だったことにあります。その後、市は萩山公民館を社会教育法に基づく施設として維持し、専門職の配置などを通じて地域コミュニティの核として育てる方針を示しました。事業者体制も見直され、改めて審査が行われました。

▶これらの前進を評価して今回は賛成しましたが、すべて解決したとは考えていません。特に、萩山集会所のように地域に一つしかない活動拠点の存続や、実際の運営への市民参加は、引き続き大きな課題です。

今回を第一歩に、公共施設再生の進め方を見直す

▶萩山小学校等複合施設は公共施設再生の第1号案件です。だからこそ、今回明らかになった課題に早急に手を着けなければなりません。施設をどう組み合わせるかという建物の計画だけでなく、どのような学びや活動を保障するのか、地域の居場所をどう守るのか、計画の初期段階から市民に広く情報を提供・共有し、多様な方々が構想や運営づくりに主体的に参加できる仕組みを整えることが欠かせません。

▶東村山市の最上位計画では、2011年にピークを迎え2020年には15万人強だった人口が、30年後の2050年には12万3千人強（18%減）に、26.9%だった高齢化率は40.5%になると予測しています。現在のところ人口は横ばいですが、今後必ず減少局面がやって来ます。総量の見直しを図りつつ、失ってはならない人と人のつながりを守り、育み、地域課題の解決のために役立つ公共施設をどのように実現していくのか。とても重いテーマですが、今回の萩山の事例も踏まえ、行政任せにすることなく、議会としても大いに市民の皆様の声を聴き、必要な見直しに取り組んでいきたいと考えています。



9月議会の一般質問報告

①人口減少時代、何を守り、何を見直すのか
市民とともに考え、決める自治へ

人口減少が進む中、自治体間で人口や財源を奪い合う「地方創生」のあり方を問い直し、これから自治体が何を公共サービスとして保障するのか、市民とともに考え、決めることの重要性を問いました。

市長は、今後「あれもこれも」ではなく「あれかこれか」を選ぶ時期が来る可能性に言及。何を市民生活の最低限の保障水準（シビルミニマム）とするか、市民自身が考え、対話を通じて市政に反映する仕組みが重要だと答えました。また、市民はサービスの受け手であると同時に、市政や地域づくりの担い手でもあると述べました。



②公民館を、学びと地域づくりの拠点に
学校と地域をつなぎ、住民自治を育てる

公民館は、講座を開いたり、部屋を貸したりするだけの施設ではありません。誰もが学ぶ権利を保障され、学びを通じて人と人がつながり、地域の課題を自分たちで考える社会教育の拠点です。

一般質問では、公民館の機能を館内にとどめず、学校や他の公共施設、地域へと広げていくことを提案しました。

教育部担当部長は「公民館が地域の社会教育の拠点になることは論を待たない」と答弁。今年度から全小中学校で始まったコミュニティ・スクールを生かし、学校を中心とする地域のネットワークと公民館で活動する市民団体を結びつけたいと述べました。

さらに、子どもたちや市民が地域を知り、主体的に学び、考える住民自治の機運を育てる方針も示しました。

こうした構想を実際の活動につなげるには、社会教育を支える専門職員と、学校・地域・市民活動を結ぶ仕組みの充実が欠かせません。

【動画】佐藤まさたか 一般質問



請願・陳情は市民からの政策提案

9月議会最終日、都知事に対する**「愛の手帳3度（中度）・4度（軽度）の知的障害者に対する医療費助成の拡充を求める意見書」**を、全議員の賛成で可決しました。

これは知的障害のある方々と保護者の方々が都議会に対して働きかけて来たものの進まなかったため、各市議会に陳情が提出されたもので、東村山市議会では私たち厚生委員会で議論をしました。その中で内容には賛意が示されましたが、陳情の取り扱いルール上どうしても採択（可決）できない点が含まれていたため、当事者の方たちとご相談の上、議員たちによる議案として文案を整え、全会一致での可決にこぎつけることができました。

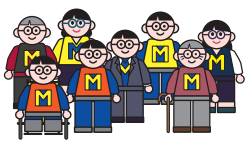
このように請願や陳情は、皆さんの身近な困りごとや仕組みやルールを変える力を持っています。

12月議会で扱うための締切は11月13日（金）17時。内容や提出方法等についてお気軽にご相談ください。

12月定例議会は11月30日（月）から

11月30日（月）… 初日・本会議
12月3日（木）4日（金）7日（月）… 一般質問
12月9日（水）～15日（火）… 委員会開催日
12月22日（火）… 最終日・本会議

東村山市議会「議会報告会」



11月13日(金)
午後7時～8時40分
会場:市民センター

9月議会の報告を中心に、議長以下すべての議員が参加して皆様のお越しをお待ちしています。

もっと詳しくお伝えし、皆さんと直接意見交換する場です。ぜひお気軽にご参加ください。

佐藤まさたか「市政ほっと対話」にお出かけください!

●私が知り得る限りの話をお伝えし、情報と意見の交換をさせていただきたく、「佐藤まさたか市政ほっと対話」を10月と11月にそれぞれ開きます。
10月は最近の市政・市議会の動きを中心に、11月は12月定例議会の直前情報を共有いただく予定です。私を支持する・しないに関係なく、どなたでもお気軽にお越しください。
●私が政党や業界団体等にお世話にならずに無所属の市議会議員として24年目を迎えることができているのは、日々の仕事や地域での活動を通じて出会った幅広い年齢やお立場のお一人おひとりからいただくアドバイスや、切実なご相談、まちづくりへのご提案などがあってのことであり、心より感謝申し上げます。
●率直なご意見やご指摘をいただき、それを糧に自身の政治活動に繋げていくというスタンスは、これまでもこれからも、一番大事にすべきものと考えています。

10月
①10月24日(土)午後まさたか
午後2時～4時
@市民センター第4会議室
②10月24日(土)夜まさたか
午後8時～9時半
@ZOOMによるオンライン
③10月24日(日)朝まさたか
午前10～11時半
@廻田公民館料理教室

11月
①11月28日(土)午後まさたか
午後2時～4時
@市民センター第3会議室
②11月28日(土)夜まさたか
午後8時～9時半
@ZOOMによるオンライン
③11月29日(日)朝まさたか
午前10～11時半
@廻田公民館第2集会室

10月24日 夜まさたか用
11月28日 夜まさたか用

※いずれも事前申し込みは要りません。
※①③は直接会場へ、②は各QRコードからどうぞ





佐藤まさたか

1963年日野市生まれ・慶應義塾大学経済学部卒・中高社会科教員免許。大学卒業後、一貫して教育や保育の現場に身を置き、2003年に東村山市議初当選。政党や特定の団体の支援を受けない超党派無所属市議として6期目。NPO法人多摩住民自治研究所副理事長／ローカル・マニフェスト推進連盟／市民と議員の条例づくり交流会議等の運営委員／日本シティズンシップ教育フォーラム／子どもの貧困対策センター「あすのば」／自治体学会等の会員／全国の優れた政策実践に贈られる「マニフェスト大賞」で最優秀賞1回、優秀賞2回受賞。

市政や議会へのご意見、ご相談など、どうぞお気軽に
Facebook や X（旧 Twitter）、ブログから発信中。
「佐藤まさたか」で検索してみてください！
メールアドレス：0627gachapin@gmail.com
東村山市廻田町2-21-13
TEL. 090-6018-3572
※電話よりもメールやSNSの方が確実です

★ブログ★

声を聴き、足を運び、市政充実と議会改革に取り組んでいます

「佐藤まさたか市政レポート」は不定期の発行です。佐藤まさたか本人とボランティアの仲間が、駅頭（主に東村山駅西口）配布やポスティングを行っていますので、連続してお届けできなかったり、発行日から時間が経っている場合もございますがご理解ください。バックナンバーは Web サイト（sato-masataka.net）でご覧いただけます。